



日時 2019年3月15日 **金**

18:40～（18:15開場）

場所 日比谷コンベンションホール
東京都千代田区日比谷公園1-4
（日比谷図書文化館地下1階 大ホール）

定員 先着**200**名様・予約不要

第1部 18:40～20:10

上映会

ほたるの川のまもりびと

半世紀もの間、石木ダム建設に抗いふるさとを守り続ける人々。
美しい里山に暮らす13世帯を巡る長編ドキュメンタリー

第2部 20:10～20:40

トークショー

山田英治 監督

「ほたるの川のまもりびと」を撮影された山田英治監督とダム問題に取り組む弁護士が対談します。

参加費無料

会場案内



【アクセス】

- ・東京メトロ 丸の内線・日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口より徒歩約3分
- ・東京メトロ 千代田線「霞ヶ関駅」C4出口より徒歩約3分
- ・都営地下鉄 三田線「内幸町駅」A7出口より徒歩約3分
- ・JR 新橋駅 日比谷口より徒歩約10分



国や行政が一方的に決める。住民は反対する。国や行政は圧倒的な人員と機材で住民を圧倒する。例えば米軍基地。例えば原発。日本中で見かける光景だ。僕たちは弱い。国は強い。でもあきらめない。だってこんなに美しい。こんなに豊かだ。

森達也
(映画監督 作家)

国家権力の元、強引に迫ってくる。妥協のない自然破壊のなかで、おだやかな人間のこころそのままに里山を守ろうとする人々の淡々とした描写が美しい。決していきりたつこともなく、しかし粘り強く手をつなぎ、真剣にたたかう人間の力に感動した。

椎名誠
(作家)

ごく普通の暮らしを、ごく普通にしたい。

朝、子どもたちが学校に行く、父と娘がキャッチボールをしている、季節ごとの農作業、おばあちゃんたちがおしゃべりしている。それは一見、ごく普通の日本の田舎の暮らし。昔ながらの里山の風景が残る、長崎県川棚町こうばる地区にダム建設の話が持ち上がったのが半世紀ほど前。50年もの長い間、こうばる地区の住民たちは、ダム計画に翻弄されてきました。現在残っている家族は、13世帯。長い間、苦楽を共にしてきた住民の結束は固く、54人がまるで一つの家族のようです。ダム建設のための工事車両を入れさせまいと、毎朝、おばちゃんたちは必ずバリケード前に集い、座り込みます。こんなにも住民が抵抗しているのに進められようとしている石木ダム。この作品には「ふるさと＝くらし」を守る、ぶれない住民ひとりひとりの思いが詰まっています。



石木ダムとは!?

石木ダムの建設計画は、約半世紀前の1962年に持ち上がりました。事業の主体は、長崎県と佐世保市。ダムの目的は利水と治水。利水とは水道事業。しかし、人口減により水需要が年々減少している。また治水の面では、石木川は、注ぎ込む川棚川の流域面積の9分の1にすぎない。その川にダムをつくることで、果たして治水に有効なのだろうか。地域住民は、ダム建設の根拠について、もう一度検証すべきとしています。
●詳しくはこちらより、<http://www.ishikigawa.jp>

